

常勤医1名体制が始まった2011年4月より、週1回の応援医師外来及び常勤医週2回の外来が開始となり、3年目を迎えた。外来患者数は年間1,610名であり、前年度より減少し図に示すように、2013年12月からの平均外来数が減少した。

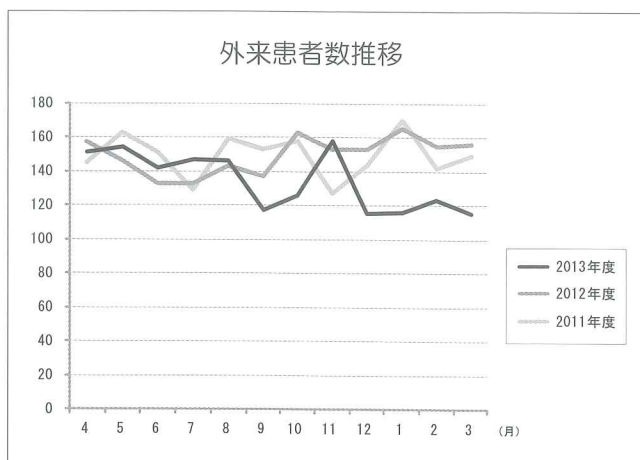
外来患者の内訳として前年度は肺癌（12%）が最も多かったが、2013年は気管支喘息 58名（10.4%）が一番多い疾患となり、その次に肺癌 56名（10%）となった。内訳を図に示すが、前年度と著変はないようである。

新入院患者数は2012年度 171名であったが、2013年度は174名とほぼ同数であった。新入院患者の疾患内訳を図に示すが、肺炎を代表とする下気道感染症が48名と28%を占め、前年度と同様に一番多い入院患者数であった当院脳神経外科医が院長のみとなったため、多職種協働のもと、脳梗塞や脳出血等の脳神経疾患の入院患者も担当するようになったため、下気道感染症の次に、脳梗塞 22名（13%）となった。脳出血などのすべての脳神経疾患では、33名（19%）となった。

内視鏡検査に関しては、2013年度途中より、消化管内視鏡検査の正式な担当になり、病院全体の上部内視鏡検査1,844例のうち、405例（22%）及び下部消化管内視鏡検査674例のうち145例（22%）を当科が施行した。気管支鏡検査に関して2013年度は9例と減少した。気管支鏡検査の対象疾患は、いずれも肺癌であった。

常勤医1名の呼吸器科であるが、入院疾患の1/5が脳神経疾患であり、全消化管内視鏡検査の1/5を施行するなど、多職種協働に貢献できたと考える。また胸部X線の読影も、一般診療で年間7,000例以上健診で年間700例以上にのぼっており、ダブルチェックによる疾患の早期発見、早期治療に寄与できたと考える。

外来患者数推移



外来患者の内訳

